



令和5年度 第24号  
令和5年9月6日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

## 2学期のスタート③ 夏休みが終わり、子どもたちの様子を見ていて

夏休み明けと言いますと、たいてい3つのタイプの子どものよく目にします。

- 1 宿題等をすべて終わらせ、ニコニコとした表情でやってくる子ども
- 2 宿題を仕上げるために夜遅くまで勉強をしていたので、睡眠不足で朝から元気がない子ども
- 3 宿題をまだ仕上げていないので、どうしようという気持ちでおどおどとした感じの子・・・。

毎年、正門前に立っていますので、子どもたちの顔の表情で、宿題の出来具合も想像がつくというものです。中には、全然できていなくても、ニコニコしてやってくる強者もいるからおもしろいものです。それだけ、夏休みの学習次第で、2学期の生活に差が出てくることも否めないということです。ご家庭でも考えられてください。そして、今後の夏休みや冬休み、春休みの参考にさせていただければと思います。

しかし、思いのほか、今年度の2学期初日は、1～3の差が少なかったように思います。さらに言うと、「子どもたちのほとんどが、夏休みの間に、だらけたり、いかげんになったり、不規則な生活になったりしていないのではないか」と感じたぐらいでした。夏休みも「学び教室」を開いた先生方のがんばりもあったかと思います。

いろいろと考えをめぐらせてみました。以前よりも始業式が早まっているので、早めに生活リズムが元に戻っていたのか。1学期のコロナ明けの指導が、子どもたちの生活規範を高めていたのか。単に校長先生にはそう見えたのか(笑)。などなど、いろいろと考えたのですが、「子どもたちがちゃんとやっているという事実が変わりはないのだ。」という結論になりました(笑)。きっと、よい夏休みを過ごすことができたのでしょう。そう考えたら、今の子どもたちの事実をきちんと受け止めて、しっかりと評価し、ほめていくことが我々教師のすべきことだと考えました。これはうれしいことなのだ。難しく考える前に、子どものその姿を評価するべきであるということです。少々、反省をした校長先生でした。

日頃から、先生方には、次のようにお伝えしています。「子どもたちのできたところをしっかりと受け止め、ほめてください。」また、「笑顔であられる学校にするためには、教師自身が笑顔でなければならぬと思います。」という言葉です。われわれ教師の仕事は、「子どもたちに力をつけること」「可能性を伸ばすこと」「間違っただ道に走らないよう、範を示すこと」だと考えています。2学期もよろしくお願ひいたします。(校長)



始業式 姿勢をピシッとして聞いています



始業式での対話活動の様子

(裏面に続きます)

# 校長先生の虫眼鏡 「なかよし学級のカレンダー」



かわいいですね。なかよし1組の1年生二人がつくった8月のカレンダーです。図工の作品は子どもたちの心の落ち着きなどが如実に表れます。二人の1年生がつくったカレンダーを見ていると、作品から子どもたちのやさしさが満ち溢れてくるように感じた校長先生でした。